

第 15 回鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会 議事要点録

日 時：平成 25 年 8 月 2 日（金）14：00～15：59

場 所：鈴鹿市役所 本館 12 階 1203 大会議室

出席者：41 名（別紙『組織構成及び出席一覧表』参照）

組織委員 31 名（全 34 名中 出席 17 名，代理 14 名，欠席 3 名）

オブザーバー 1 名

事務局（鈴鹿市）9 名

内 容：以下のとおり（要旨）

1 あいさつ

鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会 会長

鈴鹿市長 末松 則子 あいさつ

【要旨】

- ・公私ともに御多忙のところ，第 15 回鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会に御出席を賜り，心より御礼を申し上げます。
- ・本協議会は，2008 年 5 月に発足し，既に 2009 年から 2012 年まで，過去 4 回の F 1 日本グランプリを経験してきたが，関係機関の皆様の御尽力により，当協議会の取り組みが，観戦者及び地域住民にとって，大変満足していただけるものとなったことを，この場をお借りして，改めて感謝を申し上げます。
- ・鈴鹿 F 1 日本グランプリが 25 回の節目を迎える本年は，2018 年までの鈴鹿 F 1 日本グランプリの継続開催の決定，2015 年からの本田技研工業株式会社の F 1 世界選手権シリーズ復帰の発表など明るい話題が多い年となっている。
- ・特に今後 6 年間は，鈴鹿で F 1 日本グランプリを見ることができるとなると，2018 年までという長期的な視野に立った取組も考えることができ，当協議会にとってもプラスの作用が大きいと感じている。
- ・既に，10 月の F 1 日本グランプリに向け，環境整備部会，おもてなし部会の両部会において，交通渋滞の緩和や，おもてなしの向上を図るために，様々な施策に取り組んでいただいているところとは思いますが，今後は将来的な展開もにらみながら，それぞれの取組を進めていただけたらと思っている。
- ・また，本市では先ごろ『さぁ、きっともって鈴鹿。～海あり、山あり、匠の技あり～』という都市イメージキャッチコピーを作った関係で，鈴鹿 8 耐の

決勝の日に東京の青山でPRイベントを行ってきたが、その際にもやはり、鈴鹿はF1のまちであり、F1日本グランプリは鈴鹿地域にとって大切なものであると感じた。

- ・そのため、協議会の皆様方としっかりと連携をしながら、これまで以上に強力にそれぞれの取組を進めていきたいと考えているので、引き続きご尽力をお願いします。
- ・有意義な会議になるよう、委員の皆様にご協力をお願いし、冒頭の挨拶とさせていただきます。

2 議事

(1) 新規加盟団体の承認について【資料1】

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・資料1『新規加盟団体の承認について』に基づき説明
- ・『鈴鹿市商業団体連合会』及び『特定非営利活動法人鈴鹿モータースポーツ友の会』の新規加盟を提案

◎拍手多数により承認

(2) 規約改正について【資料2】

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・資料2『規約新旧対照表』に基づき説明
- ・役員任期の表現修正、新規加盟団体の名称追記、独立行政法人の名称変更に伴う修正を提案

◎拍手多数により承認

(3) 役員を選出について

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・末松会長（鈴鹿市長）の再任を提案

◎拍手多数により承認。承認後、規約第5条に基づき末松会長が、副会長に山本鈴鹿商工会議所会頭、監事に伊勢鉄道株式会社の猪俣代表取締役社長を指名

(4) 2012年度決算及び監査報告について【資料3】

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・資料3『2012年度鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会収支決算報告書』に基づき説明
- ・収入10,619,669円、支出10,327,245円、差額292,424円は2013年度へ繰り越し
- ・監査の結果、収支決算書及び関係帳簿等が適正である旨が猪俣監事より報告

◎拍手多数により承認

※2013年度の事業計画に入る前に2013年F1日本グランプリ大会概要について株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット 山下専務取締役 説明

- ・資料『2013 F I A F 1 世界選手権シリーズ第15戦 日本グランプリレース開催概要』を用いて説明
- ・今年度、鈴鹿でのF1日本グランプリ開催は25回目の節目を迎えるが、F1グランプリを20回以上開催したサーキットは世界中で10カ所もない。
- ・鈴鹿サーキットがその中に名を連ねることができたのは、地域、行政の方々の協力のおかげであり、非常に感謝している。
- ・2018年までの鈴鹿開催について基本合意しているが、これはF1の世界が5年スパンで動いているためであり、我々としては2018年ではなく可能な限り将来にわたってF1日本グランプリを開催していきたいと考えているので、引き続き協力をお願いする。
- ・本年のF1日本グランプリは、10月10日（木）から14日（月・祝）の5日間にわたって、昨年同様、10日（木）にピットウォーク・サイン会、11日（金）から13日（日）に公式スケジュール、14日（土）にファンミーティングを行う。
- ・昨年度から強化しているファミリーの呼び込み、過去ファンに再び来ていただく施策などにより、5日間の観客動員数を増やしていきたいと考えている。
- ・観客動員数を昨年と一昨年を比べてみると決勝の日は1,000人しか増えていないが、様々な取組を行った結果、5日間で約20,000人の観客動員の増加につながっている。
- ・ファミリーを呼び込むための取組として、子供連れでも安心して観戦できるファミリーシートを設定したところ非常に人気が高く、既に完売している。
- ・11日（木）には、例年通りF1ピットウォーク・ドライバーサイン会を予定しているが、ピットウォークには鈴鹿市の小学生にも参加いただくこととなっている。
- ・14日（月・祝）には、F1ファンミーティングを行い、決勝の結果をポストカードにしたウィナーズカードのプレゼントも引き続き行う。

- ・過去ファンの施策として、これまでの24回の開催にちなんだ様々なイベント、例えば中嶋悟さんと二人のレーサーの息子が一緒にF1マシンに乗るといったようなことも考えている。
- ・決勝レースの前に実施するF1ドライバーズパレードに使用するクラシックカーもその前後にグランプリスクエアに展示させていただきたいと考えている。
- ・2015年からは本田技研工業が戻ってくるが、今年のF1日本グランプリは、日本のマシンもドライバーも不在という前提で進めている。
- ・周辺や我々がしっかりとそれぞれの施策に取り組んでいくことにより、このような状況であっても、F1日本グランプリは鈴鹿で見るのが最高であるとお客様に思っていたきたいと考えている。
- ・将来にわたって安定的にF1日本グランプリを開催していくために、鈴鹿サーキットとして今まで述べたような施策を進めていくので、ご理解ご協力をお願いする。

(5) 2013年度事業計画について

①環境整備部会

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

【要旨】

- ・資料4『環境整備部会資料』の系統図に基づき説明
- ・P1系統図左上に目的・目標が示してあるが、これは例年同様である。
- ・今年のテーマは、日本グランプリが鈴鹿サーキットで行われるのが25回目の節目ということから、『SUZUKA25th Anniversary』とした。
- ・(3)から(9)までの課題を細分化し、合計65の事業を、主幹の欄に記載してある各事業者・団体・自治体が主体的に進めていただいている。
- ・それでは、資料4『環境整備部会資料』に基づき各事業者より説明をお願いしたい。

【国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・中川氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P1～P7に基づき説明
- ・P3シャトルバスのバス専用レーンとなる中勢バイパス5工区の整備状況であるが、5工区についてはこれまで、平成26年度の供用開始を目標に整備を進めてきたが、目標を1年前倒しして平成25年度末を目標に整備を進めている。
- ・そのためF1が開催される時期は、ほぼ完成に近づいており、両方向のランプを利用していただくことになることから、行きと帰りでシャトルバスが通るルートが変わることになる。

- ・また、部分的にアスファルト舗装が完成していることから、昨年より快適に利用していただくことができる。
- ・P1 今年度の取組について現状と課題をまとめ、それに対する対応を検討している。
- ・課題としては、これまで推奨ルートについてチラシの配布やホームページ等で周知活動をしてきたが、依然として鈴鹿 I C への交通集中が発生している状況がある。
- ・一方、推奨ルートが渋滞し、時間帯によっては鈴鹿 I C を利用した方が早い場合も出てきている。
- ・ウェブカメラ等で交通情報の入手に努めてきたが、それだけではリアルタイムな情報をつかみ切れない。
- ・また、鈴鹿 I C につながる県道神戸長沢線が V I C S 非対応となっていることから、カーナビにリアルタイムな渋滞情報が反映されず、カーナビをセットすると鈴鹿 I C を経由したルートで誘導されてしまう。
- ・経路変更が可能な時点で情報が提供されていないことが問題となっている。
- ・これまでツイッターで情報提供をしてきたが、土地勘のない人には文字情報では十分に情報を伝えることができない。
- ・2013 年については、伊勢神宮の遷宮が同じ時期にあることから、現時点でも予想を超える参拝者の方が訪れており、その参拝者の方の帰路と F 1 観戦者の帰路が重なり例年以上の渋滞が発生することを懸念している。
- ・これらの課題への対応として、鈴鹿 I C への交通集中を抑制するため、経路、時間の分散を図るべきであると考えている。
- ・対応としては、観戦者に対する V I C S 情報に代わるような交通情報の提供、伊勢方面から来る車への鈴鹿市内の面的な交通情報の提供の 2 つが必要と考えている。
- ・P2 時間帯によっては推奨ルートよりも鈴鹿 I C を利用した方が早い場合もあることから、時間帯別の細かな情報提供が必要である。
- ・P4 リアルタイムの交通状況をつかんで観戦者に伝えることが、経路選択のために必要である。
- ・そのための対策 1 としてスマートフォンのアプリを開発し、それを活用することにより観戦者に交通情報を提供していただく仕組み作りを進めている。
- ・対策 2 については、広域的な情報提供のため、本田技研工業のインターナビの情報を提供いただき、その情報をスマートフォンで観戦者や伊勢方面から来る車に見ていただけるようにしていく。
- ・P5 上段は、スマートフォンのアプリを活用した情報提供のイメージであり、交通情報の入ったグーグルマップの上に自分の位置を表示することにより、自車の現状がわかるようにする。

- ・具体的に情報を得る方法としては、300人位の観戦者の方に事前に登録をいただき、その方々が帰る際にスマートフォンのアプリを利用し情報を投稿いただくというものである。
- ・P5下段は、本田技研工業のインターナビの活用イメージである。
- ・P6にはスマートフォンアプリの開発等のスケジュールや時間帯毎の所要時間などを掲載したチラシのイメージである。

【近畿日本鉄道・岡本氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P8に基づき説明
- ・今年も10/12（土）、13（日）に、記載のとおり臨時列車を予定している。
- ・土曜日は、前年より1本増発させていただく予定である。
- ・伊勢神宮の遷宮の関係で、現状でも土日の特急は、ほぼ満席に近い状況であり、F1日本グランプリの際に白子駅へお出かけのお客様が特急に乗れないということも想定できることから、白子行きの特急を出したいと考えている。
- ・資料への記載はないが、今年の3月からSuicaやPASMOといったICカードが名古屋駅や白子駅前でも利用できるようになったことから、ICカードをお持ちの方のストレスが軽減されるようになったと考えている。
- ・白子駅での取組であるが、駅前臨時乗車券発売所や仮設トイレの設置場所について現在、関係機関と協議・検討中である。

【伊勢鉄道・猪俣氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P9～P10に基づき説明
- ・今回新たに加えたメニューはないが、資料に記載してある部分については、安全輸送を第一に、これまでの経験を踏まえ、よりレベルの高いサービスを提供できることと考えている。
- ・昨年と違うところは、伊勢神宮の遷宮の関係で『臨時急行いせ』が毎日運航されるほか、土曜休日には『臨時快速みえ』も1往復設定されていることから、お客様の利用がF1日本グランプリと伊勢方面へと重なることになると思うので、しっかりとJR東海と協議・調整し対応していきたい。
- ・2018年までのF1日本グランプリの継続開催が決まったことから、これまでの経験と実績を踏まえた対応を今後、考えていかなければならないと考えている。

【三重交通中勢営業所・中村氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P11に基づき説明
- ・シャトルバスの運行については、資料のとおり。
- ・車両台数は、決勝のピーク時で約80両を本年も確保する方向で調整中である。

- ・今年も、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所の協力により、中勢バイパス用地をシャトルバス専用レーンとして利用させていただきたい。
- ・例年同様のルートを走行させていただくことにより、鈴鹿サーキット周辺の一般道路での渋滞を回避でき、白子駅～鈴鹿サーキット間の輸送時間の短縮が図られ、スムーズな運行が期待できる。
- ・白子駅側の乗り場については、非常に多くのお客様がいらっしゃる10/12(土)、13(日)には、白子駅前商店街の協力を得て、時間帯の通行規制による乗降場所を本年も設置させていただきたいと考えている。
- ・臨時券売所の設置位置や旅客動線については、現在調整中である。
- ・シャトルバスの鈴鹿サーキット側の乗り場については、昨年に引き続き、鈴鹿サーキットの協力を得て、駐車場を乗車場所として利用予定である。
- ・本年度も名古屋からの直行バスも資料のとおり運行する予定である。

【中日本高速道路株式会社名古屋支社桑名保全・サービスセンター・松原氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P12～P13に基づき説明
- ・今年も、鈴鹿警察署の協力を得て、10/11(金)、10/12(土)、13(日)の3日間、鈴鹿IC出口の信号現示調整を実施する予定である。
- ・SA等休憩施設にてポスター及びチラシを配布させていただく。
- ・鈴鹿ICへの交通集中を分散化させるため、東名阪道利用者には四日市東IC出口手前、伊勢湾岸道利用者にはみえ川越IC出口手前、新名神利用者には亀山JCTにおいて標識車を配置して迂回推奨を行う。
- ・鈴鹿ICにも標識車を配置して、渋滞後尾警戒を行う。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・上野山氏】

- ・別紙資料『2013年 F1日本グランプリ駐車場・交通』に基づき説明
- ・今年も直営駐車場を各方面別に約4,500台用意しているほか、周辺の協力駐車場もあることから、観戦客の方にはどこかには駐車していただけると考えている。
- ・観戦客のスムーズな移動ができるように今年も各公共交通機関に対応した駐車場・ゲートを提供する。
- ・観戦客が自宅にいる時から情報を取得でき、サーキットへ向かう途中、園内、帰る途中と様々な場面で情報が得られるよう各種媒体を活用した情報発信を行っていく。

【鈴鹿市中央消防署・落合氏】

- ・資料4『環境整備部会資料』P14～P15に基づき説明
- ・救急救護については、記載のと通りの体制を予定している。

- ・10月12日（土）には35人の人員を派遣する。
- ・救急車が2台、もてぎサーキットより配備されるので、2台に対し各3名を配備する。
- ・7か所の救護所にも各1名の消防職員を配備する。
- ・13日（日）も12日（土）と同様35名を派遣する。
- ・13日（日）には、別に化学車（消防車）を1台配備し、4名で火災の対応にあたる。
- ・P15参考図の「T」部分のテクニカルセンターに救急車を1台、右上の交通教育センターが救護本部になるが、こちらにも救急車を1台配備し、12日（土）、13日（日）ともに7時から19時の間にそれぞれ救急隊員3名が常駐する。
- ・「A」、「C」、「I」、「M」、「U」、「G」、「R」の7カ所には、看護師、サーキット関係者ととも消防職員1名が待機する。
- ・事案が発生した場合、軽傷であれば最寄りの救護所での処置が可能である。
- ・医師の診察が必要な場合は、救護本部に待機している医師の診察を受け、状況によって救急搬送を行う。
- ・直接119番へ電話が入った場合は、指令センターから救急本部に連絡が入り、状況をみるように手配し、鈴鹿市所掌の救急車が出動して遅れをとらないように万全を期す。

【事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長】

- ・資料4『環境整備部会資料』P16～P23に基づき説明
- ・F1来場者数最大15万人を想定し、『鈴鹿周辺の渋滞解消時間について鈴鹿市内の速度低下5時間程度』を目標としている。
- ・そのために、公共交通機関の利用を促進し『公共交通機関分担を31%以上』を目標に、自家用自動車等での来場の抑制を考えている。
- ・自家用自動車等でお越しの来場者に対しては、鈴鹿IC以外のICの利用を奨励することで鈴鹿IC周辺への交通集中の解消を目指している。
- ・鈴鹿サーキット内に設置する情報収集本部で各種の情報を集約・精査し、各媒体を通じて観戦者の皆様に情報提供を行うことにより、目標の達成を目指している。
- ・本年については、ここに先ほど説明いただいた国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所の参加型の情報提供の発信に加え、本田技研株式会社よりインターナビゲーションシステムの情報を提供いただき、当協議会のホームページにおいて期間限定で閲覧できるようにしたいと考えている。
- ・鈴鹿市を中心に東は、みえ川越ICから西は亀山ICまでの区間の主な渋滞情報がわかるようにする予定である。
- ・鈴鹿市内の交通の重要箇所である、近鉄白子駅、鈴鹿サーキット前交差点、

汲川原橋南詰交差点、鈴鹿 I C 周辺、鈴鹿サーキット園地内に W E B カメラを設置し、交通情報等を収集し、発信できるような体制もとっている。

②おもてなし部会

事務局 鈴鹿市 長谷川観光振興 G L 説明

【要旨】

- ・資料 5 『おもてなし部会資料』に基づき説明。
- ・今年も、10/10 (木) から 10/14 (月・祝) の 5 日間を、重点期間と設定し、この期間を中心に、様々なイベントを実施していく。
- ・イオンモール鈴鹿展示⇒10/5 (土) ～10/13 (日) までの 9 日間、イオンモール鈴鹿専門店街 1 階北コートにおいて、鈴鹿市出身のフォトグラファー熱田護氏の作品と鈴鹿墨を用いた墨の F 1 アーティスト垂井ひろし氏の作品を展示する。
- ・F 1 映画祭⇒10/10 (木) ～13 (日) までの 4 日間、各日 19 : 00 から、ワーナー・マイカル・シネマズ鈴鹿 (イオンシネマ鈴鹿) において、『F 1 グランプリ 栄光の男たち』を上映する予定である。これは 1975 年の作品で当時の人気ドライバーであるニキ・ラウダ氏などが登場する作品である。
- ・鈴鹿日本グランプリ地元前夜祭⇒10/11 (金) 16 : 00～20 : 00、フレスポ鈴鹿内 S U Z U C O M I イベント広場において今年も開催する。県内のご当地グルメの出展や熱田護氏のトークショー、白子高校吹奏楽部の演奏、鈴鹿高校書道部のパフォーマンスなどを予定している。日本全国から来ていただいている F 1 の観戦者の方に地元の魅力を発信する場であるとともに、地元の人にも F 1 のお祭り気分を味わっていただき、観戦者と地元の人が交わる場として継続していきたいと考えている。なお、今回は三重県の観光キャンペーンとも連動した取組を考えている。
- ・三重県・5 市 1 町観光・物産 P R ブース⇒毎年、三重県、観光連盟、周辺市町、観光協会に協力をいただきながら、F 1 公式スケジュールの期間に、鈴鹿サーキット園地内において開催している。観光・物産 P R の他、ご当地キャラクターにも登場していただいている。
- ・鈴鹿日本グランプリクリーンアップ大作戦⇒決勝レース翌日の 10/14 (月・祝) に、ボランティアを募り、鈴鹿サーキット交差点を中心に東西南北の主要幹線道路の清掃を実施している。毎年、200 人を超える方々に参加していただいている。
- ・のぼり旗・横断幕の設置⇒開催気運を盛り上げるために今年も設置する。白子駅西広場が全面供用開始したことから、これまでと違った見せ方もできるのではないかと考えている。
- ・タウン雑誌 (S u z u k a V o i c e M A G A Z I N E) の活用⇒飲食店

のクーポン券やアクセス・帰路マップ等を観戦者に配布する。今年は、サポート宿泊施設で配布していただくなど、より多くの方の手に渡るような取組を進めていきたい。

- ・ F ツイ割⇒ツイッターを活用して、鈴鹿市内の飲食店等で割引や特典を受けられるという企画である。
- ・ クーポンフラッグの掲出⇒今年初めての取組であるが、得得クーポン、夜間市内無料巡回バス、Suzuka Voice MAGAZINE、F ツイ割のクーポン参加店等が共通のフラッグを掲出することにより、利用者の利便性の向上を図るとともにと一体的なおもてなし感を醸成する。2018 年までの継続開催が決まったことから、取組を続けていくことにより、クーポン参加店が増えれば、まちの活性化やおもてなし感につながるのではないかと期待している。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・田中氏】

- ・ F 1 ジュニアピットウォーク⇒世界 3 大スポーツの一つと言われる F 1 を地元の子供たちに体験していただき、未来の 5 市 1 町の礎にしたいと考え、今年度よりネックであった交通費の一部補助 (1 人 150 円) をさせていただくこととした。これにより F 1 をより身近に感じていただけるのではないかと考えている。

【鈴鹿商工会議所青年部・伊藤氏】

- ・ 2013 鈴鹿 BOXKART グランプリ⇒本年度は 10/14 (月・祝) に開催する。市内の学校や企業に BOXKART を作成し、走って楽しんでいただくとともに、F 1 観戦に来ていただいた方々に鈴鹿の良さを感じていただこうとこのイベントを行っている。併せて鈴鹿カレーグランプリを開催して、鈴鹿のグルメを PR し、F 1 観戦に来ていただいた方に鈴鹿の美味しいものを発見していただき、来年も鈴鹿に来たいと思っていただけるイベントにしたいと考えている。
- ・ 鈴鹿商工会議所青年部 F 1 応援イベント⇒メッセージオトドケ隊、くれないのチェッカーフラッグという 2 つのイベントを開催させていただく。10 月 11 日 (金) から 13 日 (日) の 3 日間通しで行っており、メッセージオトドケ隊は、ドライバー別の国旗に観戦者からメッセージを書いていただき、その国旗を各ドライバーに届けて、鈴鹿を PR する取組である。くれないのチェッカーフラッグは、観戦者に優勝ドライバーを予測してもらい、的中した方に F 1 決勝に使用されたチェッカーフラッグを贈呈するものである。今年から、鈴鹿商工会議所青年部はチェッカーフラッグを全面的に PR しており、チェッカーフラッグを見れば鈴鹿と思われるようなイベントにしてい

きたいと考えている。

【鈴鹿商工会議所青年部・山西氏】

- ・ ウェルカム鈴鹿日本グランプリ感謝セール⇒市内の店舗・企業にウェルカムセールやサービスを実施していただき、それを会議所発行のチラシに掲載することにより、地域経済の活性化や事業所の売上アップ、F1開催前からの市内全体のムードアップにつなげたい。発行部数 62,000 部、サイズはB2判のクーポン型チラシを、を9月29日（日）に新聞に折り込む予定である。掲載企業は105社となっている。
- ・ 夜間市内無料巡回バス⇒F1観戦客が鈴鹿市内に出向けるよう商業施設、飲食街等を経由する無料バスを巡回運行させ、経済効果を生み出したいと考えている。10月11日（金）、12日（土）の16時から21時までの間、20分間隔で貸切バスを運行する。運航ルートについては現在検討中であるが、サーキットから平田・庄野方面を考えている。
- ・ インフォメーション（通訳ボランティア）ブース⇒おもてなしの一環として、海外から多く来られる観戦客のための通訳ボランティアを募集し配置する。実施日は、10月11日（金）～13日（日）、場所は、鈴鹿サーキット、近鉄白子駅、伊勢鉄道鈴鹿サーキット稲生駅の3箇所を予定している。

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

- ・ オリジナル絵馬で優勝祈願⇒白子駅東側に『勝速日神社』という神社があるが、勝負に『勝』つ、『速』い、『日』の出の勢いという素晴らしいネーミングの神社が鈴鹿市にあるということで、モータースポーツと掛け合わせ、鈴鹿市の新しいパワースポット、名物にできないかということで一昨年から取組を進めている。友の会でオリジナル絵馬（鈴鹿高校デザイン）を制作し、サーキットを訪れるお客様が一度白子駅の東側に降りていただき、応援するドライバーの健闘や自らの交通安全を祈願していただくとともに白子駅の東側にも目を向けていただきたいという思いで実施している。このような取組は、継続が命であることから、今後とも長く続けていきたいと考えている。

【三重県雇用経済部観光・国際局・加藤氏】

- ・ 本年は、観光キャンペーンとの連動ということで鈴鹿、F1、モータースポーツをとらえている。
- ・ 県が発行する観光キャンペーンのオフィシャルガイドブックや広域単位ごとのパンフレットなどで、F1、モータースポーツの情報を発信している。
- ・ F1自体の直近の情報発信としては、全戸配布の県政だよりの9月号にF1やF1協議会の内容について特集で取り上げている。

- ・ 9月末に東京日本橋にオープンする首都圏営業拠点での情報発信についても、時期的にはギリギリになるが、現在調整をしている。
- ・ 本年の新しい内容として、観光キャンペーンで発行している『みえ旅パスポート』をF1開催日の12日（土）、13日（日）の2日間にサーキット園地内で臨時発給する予定であるが、特別にF1時専用のスタンプを押すということも考えているので、SNSを活用して情報発信したいと考えている。

○質疑・意見

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・山下氏】

- ・ F1ジュニアピットウォークについて、補足させていただく。今年から地域の小学生の皆さんに少しでも多く参加していただきたいと思い一人あたり150円の補助を出すこととしている。これは、鈴鹿地域で育った子供たちが将来、大人になって県外に出て行ったときにF1を生で見たことがあるということが、助けや誇りになってほしいという思いからである。世界中で地元の小学生が無料でピットウォークに参加できるのは、鈴鹿だけである。鈴鹿サーキットとしては、地域で育った全ての子供たちがF1のピットウォークを体験できるように頑張っていくので、関係機関の方々にも是非とも協力をお願いしたい。

(6) 2013年度予算案について

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・ 資料6『2013年度鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会収支予算（案）』に基づき説明。
- ・ 収入10,869,024円、支出10,869,024円（詳細については資料6参照）。
- ・ 寄付金については、鈴鹿サーキット協力会様よりご厚志100,000円をいただいているが、贈呈の際に鈴鹿F1協議会の会長名で感謝状を差し上げることで、お礼に代えさせていただいた。
- ・ なお、本年度の予算については、5月2日付で4月の運営委員会で協議した予算案を委員の皆様を送付させていただいたところ、特に意見がなかったことから、一部既に執行していることを了承願いたい。
- ・ なお事業計画については、変更や新規事業なども出てくると思うが、その点についても了承をお願いする。

◎拍手多数により承認（2013年度事業計画及び予算案について一括）

(7) その他

【観光庁スポーツ観光推進室・八木氏】

- ・今年度もF 1日本グランプリが開催されるということで、観光庁としても様々な協力をさせていただきたいと思っている。
- ・政府の日本再興戦略の中で観光の振興が一つの重要な施策として位置付けられており、今年は訪日外国人 1,000 万人突破に向けて頑張っているが、このままでいけば達成できるのではないかと見込んでいる。
- ・このような中でF 1日本グランプリは、日本にある数少ない世界的なビッグイベントであり、観光資源として期待されている。
- ・観光庁としても今後PR活動や大臣のプレゼンターとしての出席の実現などに向けて取り組んでいくので引き続き皆様の協力をお願いする。

3 その他

事務局 鈴鹿市 菅沼商業観光課長 説明

- ・『2013年度協議会・部会・作業部会・運営委員会の開催日程』に基づき説明
- ・本日の協議会を迎えるにあたり、運営委員会、各部会、作業部会などを開催しているところである。
- ・今後、10月のF 1日本グランプリ終了後に各部会で事業を検証し、その結果を12月中旬頃に開催予定の協議会にて報告させていただきたいと考えているので、皆様の出席をお願いする。

15 : 59 終了

次回開催は 平成 25 年 12 月中旬頃 を予定いたしております。